

今年度の成果と今後の方針

成果1 ～職員の声～

研究部長



働く上での悩みや迷いを共有し、じゃあどのように解決するのか？を職員や生徒と考える過程が楽しかったです。毎年少しずつ学校が変わっていきワクワクしています。カリマネに取り組むことで、学校の課題解決のために必要な時期ややり方を見直すことができたことができました。

総合担当



日々忙しく過ごしていて、自分の学校の課題は見えても、なかなか強みに気付いていませんでした。カリマネを通して学校の財産に気づき、生かすことは日々の業務に対する充実感にも繋がりました。カリマネって大変なイメージが強かったのですが、今はカリマネに取り組むことは教師にとっても生徒にとっても魅力的な学校作りになるのだと認識が変わりました。

成果2 ～生徒の姿より～

「生徒とともに学校を動かそう」をカリマネの1つのコンセプトとし、実施した結果、生徒からこのような発言を聞くことができました。

学習リーダー会会長

私たちの手でよりよい附中を創っていきましょう！



この言葉は、生徒が10月の「響き合い学習会」で言ったものです。生徒とともに学校を動かすことで、生徒には、『自分たちがよりよい学校を創る』という“誇り”のようなものが芽生えています。

食育栄養課課長

フードロスについて、お弁当や残乳など身近な問題から考え、全校で行動に移すことができました。



生徒は“当事者”として学校を動かすことで、社会問題や自分の生き方を見つめ直します。生徒とともに学校を動かすことは、社会と人生を切り拓く“当事者”になる経験を生徒が積み重ねる上で大切です。

今後の方針

- 生徒に学習の主導権をもっと委ねた探究活動を展開する。
- 教科の中で論理的思考力のどのような要素を育成するのか等、教科間で共通認識する。

コラム ～ちょっと工夫すればみんなできるカリマネ～

カリキュラム・マネジメントのはじめの一步は、これまで取り組んできたことを見直し、今の本校にとって本当に必要な形にすることでした。ゼロから始めないカリマネは学校の強みを生かすことができ、職員の負担減にもつながります。本校の特色ある教育を見直し活用することで、過去と現在の研究を関連づけ、効率的かつ効果的に、課題解決につなげるからこそ、学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントにおいて鍵になると本校では考えました。「学校の課題を見つめる」「過去の実践を振り返る」など、ちょっと工夫すればみんなできる。そんなカリマネを始めてみませんか？



もう少しカリマネについて詳しく知りたいと思った方はこちらからどうぞ。本校HPから、カリマネに関する他校の実践や一問一答形式でまとめられたパンフレットなどをご紹介します。

本校ホームページはこちら



熊本大学教育学部附属中学校
〒860-0081 熊本県熊本市中央区京町本丁5-12
TEL: 096-355-0375

<https://www.kumamoto-fuchu.ed.jp>

○参考文献

松下佳代

「対話型論証による学びのデザイン～学校で身につけてほしいたった一つのこと～」

村川雅弘

「学力向上・授業改善・学校改革カリマネ100の処方」



よりよい社会と
幸福な人生は
私たちが切り拓く

カリマネをやってみよう

こんな言葉を生徒が語るカリマネやってみませんか？

本校のカリキュラム・マネジメントの2つのコンセプト

- 学校の財産をアップデートしよう
- 生徒とともに学校を動かそう



熊本大学教育学部附属中学校

Junior High School Attached to Faculty Education, Kumamoto University

熊大附中型 カリキュラム・マネジメントの1年

職員の動き

学校の財産をアップデートしよう

本校の課題を分析し、教育活動のコンセプトを設定

学校の財産をアップデートしよう

これまでの研究の成果の改善

生徒とともに学校を動かそう

総合的な学習の時間及び特別活動の時間を活用し、探究活動を行う「課活動」を通して、生徒が学校運営に参画する。

育成を目指す3つの資質・能力を設定

「論理的思考力」「合意形成力」「他者に貢献する力」

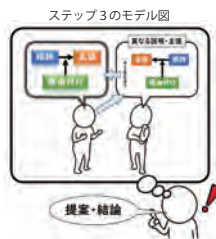
育成する手段の共有

これまで取り組んできた財産「論理的思考モデル」をアップデートし、合意を形成するまでの「ステップ」を共有しました。

ステップ1 道筋を立てて
分かりやすく
説明しよう

ステップ2 対話を通して
自分の考えを
磨こう

ステップ3 誰もが納得できる
結論を出そう



身につける資質・能力を学校全体で共有する

5月：研究部長による全校朝会
全校生徒と育成を目指す資質・能力を発揮した姿等を共有しました。

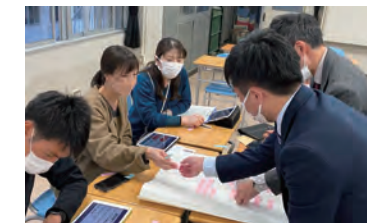
研究授業に取り組む

研究授業も「財産」として捉えたと学校が変わるチャンスとなります。本校では、次のような意図を持って年3回の研究授業に取り組みました。

- ① 研究の方向性の共有（6月）
- ② 取り組みの検証（10月）
- ③ 次年度の方向性の模索（2月）

カリキュラムを評価する

- 11月以降：校内研修の実施
- ・アップデートした財産における課題は？
- ・課題解決のために優先的に取り組むべきことは？



Check 2月

Action 3月

Plan 4月

5月

...

7月

...

11月

...

Check 1月

2月

生徒の動き

生徒とともに学校を動かそう

身につける資質・能力の共有

3月下旬：リーダー研修会

生徒会執行部と職員で、課活動を通して学校運営へ参画方法を検討する中で、「他者に貢献する力」を発揮する生徒の姿を具体化しました。



探究活動の年間計画を作成

課長を中心に、課全体の探究テーマ及び個人の探究テーマ、それに伴う年間の活動計画を検討・作成しました。



探究活動の中間報告とまとめ

7月：中間報告会「未来創造フォーラム」開催

他課から意見をもらい、より深い探究へとつながるようにしました。

10月末：まとめ

前期終了時に、探究活動の成果や課題をまとめ、自分の生き方を振り返りました。

生徒の探究活動が学校運営に参画した一例

研究授業の内容を生徒が議論する授業研究会「響き合い学習会*」を実施し、本校の授業のあり方を見直し、改善を図ろうとしました。

次の探究活動に備える

「今回の活動の意義は？」

「次に学校のために取り組むべきことは何か？」の視点から振り返り、次の探究活動の方向性を模索しました。

※響き合い学習会

探究活動の一例について、より詳しく知りたい方はこちら！

